

東京海洋大学海洋工学部の3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。学科ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学の目的（東京海洋大学学則第1条）	学部の教育研究上の目的	
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 	<p>海洋工学部においては、海上輸送に関連する海、船の利用及び物流等に強い関心を持ち、工学的視点からこれらに係わる諸課題の理解と解決に必要な高度な技術と専門知識を含む幅広い教養、及び豊かな人間性を身につけた国際的にも活躍できる高度専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)
<p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>海洋工学部においては、海上輸送に関連する海、船、物流等の問題に関心を持ち、専門的知識を含む幅広い教養と豊かな人間性とともに、課題の理解と解決に必要な高度な技術を身につけ、国際的にも活躍できる高度専門職業人の養成を目指します。</p> <p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p> <p>【幅広い視野、文化的素養】 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養</p> <p>【コミュニケーション能力、リーダーシップ】 技術者として必要となる幅広い教養と国際的視野に裏打されたコミュニケーション能力およびリーダーシップの能力</p> <p>【専門的知識・問題解決能力】 海、船、物流等に関する専門的な知識を持ち、それらを活用して問題解決する能力</p> <p>【実践的指導力】 社会のリーダーとして求められる実践的指導力</p> <p>【自ら判断・行動できる能力】 課題に対して進んで取り組み、論理的に考え、的確な判断および行動ができる能力</p> <p>3. 卒業認定（学位授与）の要件</p> <p>所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。</p>	<p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>海洋工学部においては、海、船、物流等に係わる諸課題の理解と解決に必要な高度な技術を身につけ、国際的にも活躍できる高度専門職業人を養成するため、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、全学共通科目を含む総合科目、基礎教育科目、学外実習、実習、実験、演習を含む専門科目を有機的に組み合わせたカリキュラムを編成します。</p> <p>海事システム工学科及び海洋電子機械工学科では、それぞれ三級海技士（航海）、三級海技士（機関）の資格取得を可能にするためのカリキュラムもあわせて編成します。</p> <p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>【総合科目】 総合科目は、全学体制のもとで開講し、幅広い視野、豊かな人間性と文化的素養を養うことを目的として、文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・スポーツ系、外国語系科目より構成されています。〔2〕</p> <p>【基礎教育科目】 基礎教育科目は、数学、物理、情報系科目等からなり、これにより専門科目を学ぶための基礎学力を身につけます。</p> <p>【専門科目】 専門科目により、海、船、物流等に関する必要な専門知識を身につけます。また、実学を重視した実習、実験、演習により、的確な判断力やコミュニケーション能力、リーダーシップの能力を身につけます。さらにゼミナールおよび卒業研究を通して、課題探求能力、問題解決能力を身につけます。〔3〕</p> <p>（海事システム工学科） 2年次後学期から、船舶管理または海事工学の教育プログラムを選択し、専門科目を学びます。海技士資格の取得を目指す学生は、上記のプログラムだけでなく、海技士科目を学びます。</p> <p>（海洋電子機械工学科） 3年次から海技士（機関）ならびにその関連技術者となることを目指すコースと、乗船実習の経験を活かした機器開発、運用技術者となることを目指すコースに分かれ、それぞれのコースで養成を行う技術者に必要な専門知識を身につけます。</p> <p>（流通情報工学科） ロジスティクス・交通計画・物流システムからなる工学系、数理情報・情報工学・システム工学・プログラミングからなる情報系、経済学・商学・経営学からなる社会科学系の3分野の科目をバランスよく開講します。</p> <p>【学修成果の評価の方針】〔4〕 学習成果の評価基準を明示するとともに評価結果の活用を通して学生の自律的学習力を育成します。（東京海洋大学カリキュラム・ポリシー）</p>	<p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>海洋工学部では、人類社会の持続的発展に資するため、海上輸送に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、安全な運航、制御システム、省エネルギー技術、ロジスティクスなどについて、国際的な視野に立つ指導的エンジニアとして工学的視点から問題を解決しようとする意欲を持つ人を求めます。</p> <p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能)</p> <p>(1) 幅広い教養と入学後の学修に必要な英語、数学、理科などの基礎学力を持つこと（思考力・判断力・表現力等の能力）</p> <p>(2) 知識に基づいて論理的な思考および適切な判断ができること</p> <p>(3) 国際的な視野、社会性、協調性と健全な倫理観を持って行動できること（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）</p> <p>(4) 工学分野に関して知的好奇心が旺盛で、自ら進んで知識を吸収する学習意欲のあること</p> <p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査や総合型選抜、編入学入試を行います。</p> <p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔5〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜 （課題学習能力試験、模擬授業・課題論文、小論文、面接、調査書、志望理由・自己推薦書） ○ 私費外国人留学生特別入試 （個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、成績証明書） ○ 一般選抜(前期日程) （大学入学共通テスト、個別学力検査） ○ 一般選抜(後期日程) （大学入学共通テスト、個別学力検査） ○ 編入学(推薦) （小論文、面接、調査書、推薦書、志望理由書） ○ 編入学(学力) （学力試験、成績証明書）

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。
 〔2〕 総合科目では、広範な教養教育科目等に加えて、初年次教育として共通導入科目を設け、海洋関連分野の概論科目、情報リテラシー科目、日本語表現法等の学部専門教育の学修基盤となる科目を開講します。
 〔3〕 専門分野の各科目に加えて、インターンシップ科目（国内・海外）、キャリア教育科目等を開講します。
 〔4〕 各科目の到達目標・評価方法・評価基準等はシラバスで明示しており、科目ごとに定める到達目標の達成度について、定期試験、レポート、プレゼンテーション等により厳格な成績評価を行い、当該評価結果に応じ、優・良・可・不可の成績を付与します。
 〔5〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。（内容はアドミッションポリシー（全文）でご確認ください。）